

東由利町報

№ 223 の① 昭和50年(1975)6月1日

発行 秋田県東由利町役場 印刷 K K 本間印刷所
毎月1日発行(1部20円)昭和42年7月21日第3種郵便物認可

町の概況

人口総数 6,613
うち男 3,240
うち女 3,373
世帯数 1,505
面積 148.51km²

長沢町議会議長
郡議長会会長に



長沢 議長

長沢町議会議長は、五月十六日由利町村会館(本町)で開かれた由利町村議会議長の役員改選で、会長に選出され就任しました。
円満な人柄に隠された豊富な議会運営の手腕は、郡議会議長の要職にあっても遺憾なく発揮され、由利町本町の発展に貢献するものと期待がかけられています。

町議五期目、土木常任委員長を経て副議長、議長、由利町議会議長を歴任

電話自動化25日午後2時から

市外局番 018469 に

本庄グループ

通話料二分ごと七円

秋田や横手は80秒ごとに

六月二十五日で自動化に切り替えられるのは老万局のほか由利局、象潟町上浜局など老万局は東由利局となり市外局番が〇一八四六九番にかわります。
そのほか、今回の自動化で従来と大きくかわる点は①電話番号がわかりずれも四ケタとなる。②交換手を通さず、直接相手と通話できる。③使用するときに通話料がかかる。④電話で電報をうつ場合は一五番で本庄局の電報係が出る。⑤郵便局での電報業務は廃止され(電報の発信、窓口通話、電報料金収納だけは従来どおり)東由利電話局が業務を行う一な

通話料は本庄市由利部を単位とする本庄グループ内同志の通話では百八十秒(三分)まで七円、三分を超える一分ごとに七円の三分の一ずつ加算されます。(三分単位に七円ずつ加算)
また秋田市や南秋田郡・河辺郡などの秋田グループ、横手市平鹿郡の湯沢グループ、湯沢市雄勝郡の湯沢グループおよび大曲市仙北郡の大曲グループなどの通話はいずれも八十秒ごとに七円ずつ加算され、長距離になるほどに秒単位で一定料金に加算されることとなります。

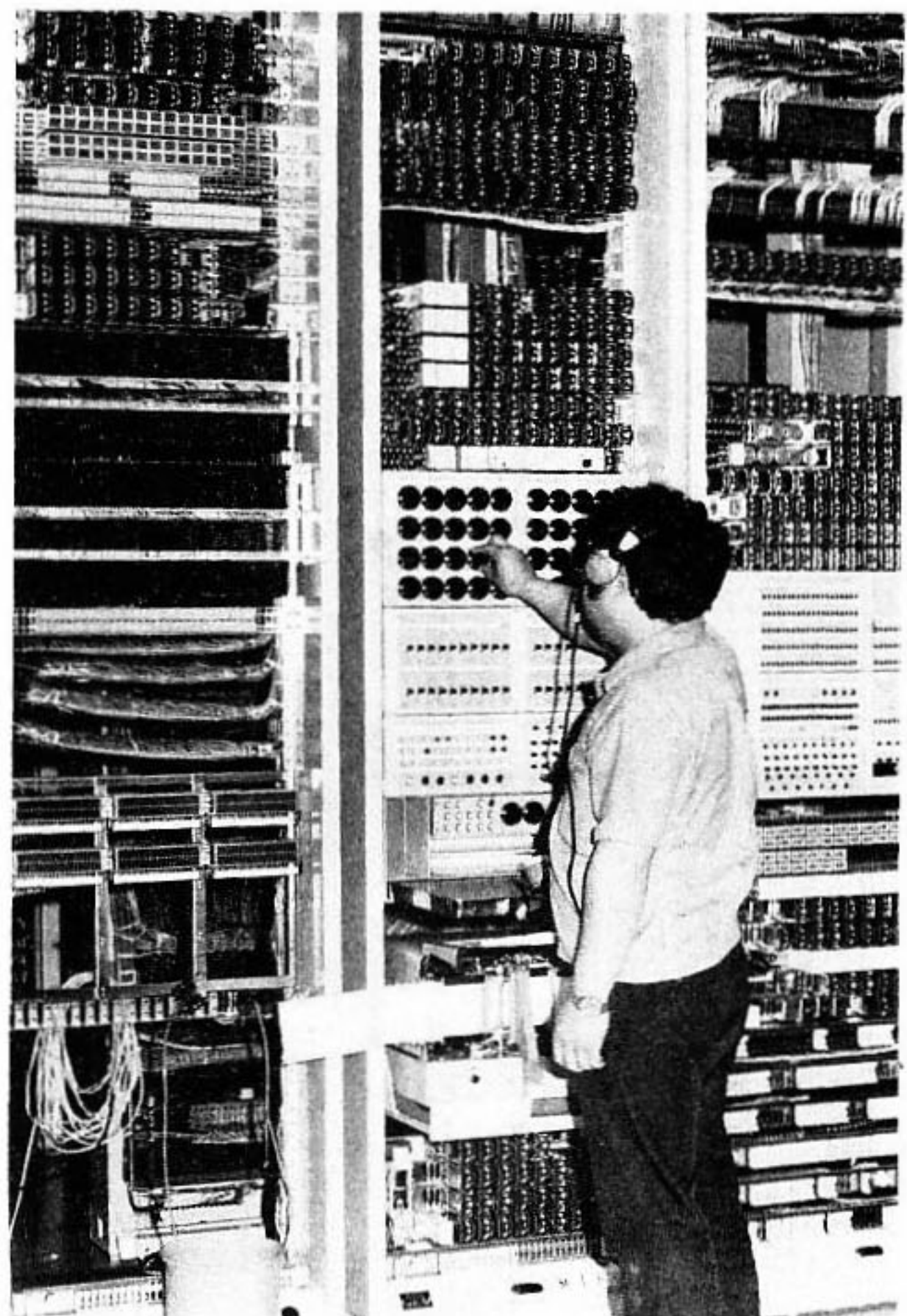
一一九番本署に直結

消防署一審指令室(本署)に直結、緊急出動を容易にするようになります。
一一九番の通報にあたっては、火災と救急の別に、次の点に十分注意するようになっています。

使用説明会九日から
本庄電報電話局では、自動化に先立ち、次の五会場で自動電話のかけ方について説明会を開催することになり、加入者全員の参加をのぞんでいます。
また、新しい電話番号帳はこの説明会場で配布されることになり、引きかえは別途に配布したピンクのチラシの下部「引換券」に電話番号と加入者の氏名を記載して持参されたいとしています。

自動電話のかけ方説明会日程

月	日	時	会	場	参	集	範	開
6	9	13.00~15.30	宿	小学校	宿	袖小通学区の全	域	
6	10	9.00~11.30	蔵	小学校	蔵	小学校通学区の全	域	
6	11	9.00~11.30	老	方小学校	老	方小通学区の全	域	
6	12	9.00~11.30	玉	米小学校	玉	米小通学区の全	域	
6	13	9.00~11.30	住	吉小学校	住	吉小通学区の全	域	



セッされた電子機器が幾層にも林立する自動電話の心臓部(機械室)では開通をまって連日テストが続けられている

16納税組合を表彰

活発な意見、実ある会に

部落長会議

五月一日、朋業を会場に昭和五十年の部落長会議が開催され、全町六十部落(納税組合)が町長から表彰され、続いて町側の依頼連絡およびそれに連する意見交換が行われました。

水道週間です

6月1日~7日

六月一日から七日までは水道週間です。本町の水道普及率は六四・〇割であり未設置地区の解消が課題となっています。既設地区ではその管理に不備がないか、未設置地区では水源等についてあらためて考える機会にしましょう。

表彰に続いてあいさつに立った小松町長は、町政が順調に進行しているのは部落長を始めとする町民各位の協力の賜であるとして大きな謝意を表すとともに、五十年の主要施策を中心に町政の概要を説明、町政への一層の理解と協力を要請しました。
続いて各課長等から、依頼や連絡事項について説明がなされ、それに対して部落長から活発に意見が寄せられました。

部落長からの意見等

その主なものを紹介すると①役場からの送文書に誤りはないか、(特)特定人対象のもの



優良納税組合の表彰風景

上支障があるので生活扶助の該当者を知らせてもらえないか。②消防団の管理は一片の依頼だけでは心もとない、情況調査も行うべき。
③建設課関係 (1) 館西地内通学路の崖にガードレールを。
④産経課関係 (1) 若林牧場への道路を通行可能に。(2) 畜産に際して町や農協の指導体制がバラバラでは困る。
⑦教養関係 (1) 町の体育行事が多過ぎる再考を。などでした。

無火災記録、日々更新

365日の達成目前

四月から五月にかけては最も火災の発生しやすい危険期でしたが、一九九となった火災予防に立ち上がった町民一人ひとりの注意が功を奏し、昨年六月二十一日の松台の火災を最後に一件の火災も発生しませんでした。
このまま行くと今月中には無火災三百六十五日が実現します。

火災取り扱いに一層注意を加え、当面、無火災一千日の記録にチャレンジしたいものです。

町民の福祉向上に役を担うと期待されている「福祉バス」(42人乗)は、今月末までの間に納車されることになっています。

福祉バス愛称募集

より愛称を広く町民から募集することにしました。あなたも福祉バス愛称の名づけ親になってみませんか。①応募方法 官製ハガキに愛称および差出人の住所氏名、年令を明記のこと。(「入」一枚一愛称に限る。)



島山富男氏と単光旭日章

島山副団長に叙勲

勲六等単光旭日章

四十三余年にわたり町消防団に籍を置き町消防の発展と防火思想の普及高揚に貢献された町消防団副団長島山富男氏(石高59歳)が、天皇誕生日の佳き日に勲六等に叙され、単光旭日章の栄誉に輝きました。同氏は、昭和八年玉米村消防手、同十四年玉米村警防団員、同二十二年同副団長、同二十六年玉米村消防分団長、同三十二年同副団長、同三十四年同副団長、同三十八年同副団長、同四十二年同副団長、同四十六年同副団長、同五十年同副団長、同五十四年同副団長、同五十八年同副団長、同六十二年同副団長、同六十六年同副団長、同七十年同副団長、同七十四年同副団長、同七十八年同副団長、同八十二年同副団長、同八十六年同副団長、同九十年同副団長、同九十四年同副団長、同九十八年同副団長、同百零二年同副団長、同百零六年同副団長、同百一十年同副団長、同百一十四年同副団長、同百一十八年同副団長、同百二十二年同副団長、同百二十六年同副団長、同百三十年同副団長、同百三十四年同副団長、同百三十八年同副団長、同百四十二年同副団長、同百四十六年同副団長、同百五十年同副団長、同百五十四年同副団長、同百五十八年同副団長、同百六十二年同副団長、同百六十六年同副団長、同百七十年同副団長、同百七十四年同副団長、同百七十八年同副団長、同百八十二年同副団長、同百八十六年同副団長、同百九十年同副団長、同百九十四年同副団長、同百九十八年同副団長、同二百零二年同副団長、同二百零六年同副団長、同二百一十年同副団長、同二百一十四年同副団長、同二百一十八年同副団長、同二百二十二年同副団長、同二百二十六年同副団長、同二百三十年同副団長、同二百三十四年同副団長、同二百三十八年同副団長、同二百四十二年同副団長、同二百四十六年同副団長、同二百五十年同副団長、同二百五十四年同副団長、同二百五十八年同副団長、同二百六十二年同副団長、同二百六十六年同副団長、同二百七十年同副団長、同二百七十四年同副団長、同二百七十八年同副団長、同二百八十二年同副団長、同二百八十六年同副団長、同二百九十年同副団長、同二百九十四年同副団長、同二百九十八年同副団長、同三百零二年同副団長、同三百零六年同副団長、同三百一十年同副団長、同三百一十四年同副団長、同三百一十八年同副団長、同三百二十二年同副団長、同三百二十六年同副団長、同三百三十年同副団長、同三百三十四年同副団長、同三百三十八年同副団長、同三百四十二年同副団長、同三百四十六年同副団長、同三百五十年同副団長、同三百五十四年同副団長、同三百五十八年同副団長、同三百六十二年同副団長、同三百六十六年同副団長、同三百七十年同副団長、同三百七十四年同副団長、同三百七十八年同副団長、同三百八十二年同副団長、同三百八十六年同副団長、同三百九十年同副団長、同三百九十四年同副団長、同三百九十八年同副団長、同四百零二年同副団長、同四百零六年同副団長、同四百一十年同副団長、同四百一十四年同副団長、同四百一十八年同副団長、同四百二十二年同副団長、同四百二十六年同副団長、同四百三十年同副団長、同四百三十四年同副団長、同四百三十八年同副団長、同四百四十二年同副団長、同四百四十六年同副団長、同四百五十年同副団長、同四百五十四年同副団長、同四百五十八年同副団長、同四百六十二年同副団長、同四百六十六年同副団長、同四百七十年同副団長、同四百七十四年同副団長、同四百七十八年同副団長、同四百八十二年同副団長、同四百八十六年同副団長、同四百九十年同副団長、同四百九十四年同副団長、同四百九十八年同副団長、同五百零二年同副団長、同五百零六年同副団長、同五百一十年同副団長、同五百一十四年同副団長、同五百一十八年同副団長、同五百二十二年同副団長、同五百二十六年同副団長、同五百三十年同副団長、同五百三十四年同副団長、同五百三十八年同副団長、同五百四十二年同副団長、同五百四十六年同副団長、同五百五十年同副団長、同五百五十四年同副団長、同五百五十八年同副団長、同五百六十二年同副団長、同五百六十六年同副団長、同五百七十年同副団長、同五百七十四年同副団長、同五百七十八年同副団長、同五百八十二年同副団長、同五百八十六年同副団長、同五百九十年同副団長、同五百九十四年同副団長、同五百九十八年同副団長、同六百零二年同副団長、同六百零六年同副団長、同六百一十年同副団長、同六百一十四年同副団長、同六百一十八年同副団長、同六百二十二年同副団長、同六百二十六年同副団長、同六百三十年同副団長、同六百三十四年同副団長、同六百三十八年同副団長、同六百四十二年同副団長、同六百四十六年同副団長、同六百五十年同副団長、同六百五十四年同副団長、同六百五十八年同副団長、同六百六十二年同副団長、同六百六十六年同副団長、同六百七十年同副団長、同六百七十四年同副団長、同六百七十八年同副団長、同六百八十二年同副団長、同六百八十六年同副団長、同六百九十年同副団長、同六百九十四年同副団長、同六百九十八年同副団長、同七百零二年同副団長、同七百零六年同副団長、同七百一十年同副団長、同七百一十四年同副団長、同七百一十八年同副団長、同七百二十二年同副団長、同七百二十六年同副団長、同七百三十年同副団長、同七百三十四年同副団長、同七百三十八年同副団長、同七百四十二年同副団長、同七百四十六年同副団長、同七百五十年同副団長、同七百五十四年同副団長、同七百五十八年同副団長、同七百六十二年同副団長、同七百六十六年同副団長、同七百七十年同副団長、同七百七十四年同副団長、同七百七十八年同副団長、同七百八十二年同副団長、同七百八十六年同副団長、同七百九十年同副団長、同七百九十四年同副団長、同七百九十八年同副団長、同八百零二年同副団長、同八百零六年同副団長、同八百一十年同副団長、同八百一十四年同副団長、同八百一十八年同副団長、同八百二十二年同副団長、同八百二十六年同副団長、同八百三十年同副団長、同八百三十四年同副団長、同八百三十八年同副団長、同八百四十二年同副団長、同八百四十六年同副団長、同八百五十年同副団長、同八百五十四年同副団長、同八百五十八年同副団長、同八百六十二年同副団長、同八百六十六年同副団長、同八百七十年同副団長、同八百七十四年同副団長、同八百七十八年同副団長、同八百八十二年同副団長、同八百八十六年同副団長、同八百九十年同副団長、同八百九十四年同副団長、同八百九十八年同副団長、同九百零二年同副団長、同九百零六年同副団長、同九百一十年同副団長、同九百一十四年同副団長、同九百一十八年同副団長、同九百二十二年同副団長、同九百二十六年同副団長、同九百三十年同副団長、同九百三十四年同副団長、同九百三十八年同副団長、同九百四十二年同副団長、同九百四十六年同副団長、同九百五十年同副団長、同九百五十四年同副団長、同九百五十八年同副団長、同九百六十二年同副団長、同九百六十六年同副団長、同九百七十年同副団長、同九百七十四年同副団長、同九百七十八年同副団長、同九百八十二年同副団長、同九百八十六年同副団長、同九百九十年同副団長、同九百九十四年同副団長、同九百九十八年同副団長、同千零零二年同副団長、同千零零六年同副団長、同千零一十年同副団長、同千零一十四年同副団長、同千零一十八年同副団長、同千零二十二年同副団長、同千零二十六年同副団長、同千零三十年同副団長、同千零三十四年同副団長、同千零三十八年同副団長、同千零四十二年同副団長、同千零四十六年同副団長、同千零五十年同副団長、同千零五十四年同副団長、同千零五十八年同副団長、同千零六十二年同副団長、同千零六十六年同副団長、同千零七十年同副団長、同千零七十四年同副団長、同千零七十八年同副団長、同千零八十二年同副団長、同千零八十六年同副団長、同千零九十年同副団長、同千零九十四年同副団長、同千零九十八年同副団長、同千一百零二年同副団長、同千一百零六年同副団長、同千一百一十年同副団長、同千一百一十四年同副団長、同千一百一十八年同副団長、同千一百二十二年同副団長、同千一百二十六年同副団長、同千一百三十年同副団長、同千一百三十四年同副団長、同千一百三十八年同副団長、同千一百四十二年同副団長、同千一百四十六年同副団長、同千一百五十年同副団長、同千一百五十四年同副団長、同千一百五十八年同副団長、同千一百六十二年同副団長、同千一百六十六年同副団長、同千一百七十年同副団長、同千一百七十四年同副団長、同千一百七十八年同副団長、同千一百八十二年同副団長、同千一百八十六年同副団長、同千一百九十年同副団長、同千一百九十四年同副団長、同千一百九十八年同副団長、同千二百零二年同副団長、同千二百零六年同副団長、同千二百一十年同副団長、同千二百一十四年同副団長、同千二百一十八年同副団長、同千二百二十二年同副団長、同千二百二十六年同副団長、同千二百三十年同副団長、同千二百三十四年同副団長、同千二百三十八年同副団長、同千二百四十二年同副団長、同千二百四十六年同副団長、同千二百五十年同副団長、同千二百五十四年同副団長、同千二百五十八年同副団長、同千二百六十二年同副団長、同千二百六十六年同副団長、同千二百七十年同副団長、同千二百七十四年同副団長、同千二百七十八年同副団長、同千二百八十二年同副団長、同千二百八十六年同副団長、同千二百九十年同副団長、同千二百九十四年同副団長、同千二百九十八年同副団長、同千三百零二年同副団長、同千三百零六年同副団長、同千三百一十年同副団長、同千三百一十四年同副団長、同千三百一十八年同副団長、同千三百二十二年同副団長、同千三百二十六年同副団長、同千三百三十年同副団長、同千三百三十四年同副団長、同千三百三十八年同副団長、同千三百四十二年同副団長、同千三百四十六年同副団長、同千三百五十年同副団長、同千三百五十四年同副団長、同千三百五十八年同副団長、同千三百六十二年同副団長、同千三百六十六年同副団長、同千三百七十年同副団長、同千三百七十四年同副団長、同千三百七十八年同副団長、同千三百八十二年同副団長、同千三百八十六年同副団長、同千三百九十年同副団長、同千三百九十四年同副団長、同千三百九十八年同副団長、同千四百零二年同副団長、同千四百零六年同副団長、同千四百一十年同副団長、同千四百一十四年同副団長、同千四百一十八年同副団長、同千四百二十二年同副団長、同千四百二十六年同副団長、同千四百三十年同副団長、同千四百三十四年同副団長、同千四百三十八年同副団長、同千四百四十二年同副団長、同千四百四十六年同副団長、同千四百五十年同副団長、同千四百五十四年同副団長、同千四百五十八年同副団長、同千四百六十二年同副団長、同千四百六十六年同副団長、同千四百七十年同副団長、同千四百七十四年同副団長、同千四百七十八年同副団長、同千四百八十二年同副団長、同千四百八十六年同副団長、同千四百九十年同副団長、同千四百九十四年同副団長、同千四百九十八年同副団長、同千五百零二年同副団長、同千五百零六年同副団長、同千五百一十年同副団長、同千五百一十四年同副団長、同千五百一十八年同副団長、同千五百二十二年同副団長、同千五百二十六年同副団長、同千五百三十年同副団長、同千五百三十四年同副団長、同千五百三十八年同副団長、同千五百四十二年同副団長、同千五百四十六年同副団長、同千五百五十年同副団長、同千五百五十四年同副団長、同千五百五十八年同副団長、同千五百六十二年同副団長、同千五百六十六年同副団長、同千五百七十年同副団長、同千五百七十四年同副団長、同千五百七十八年同副団長、同千五百八十二年同副団長、同千五百八十六年同副団長、同千五百九十年同副団長、同千五百九十四年同副団長、同千五百九十八年同副団長、同千六百零二年同副団長、同千六百零六年同副団長、同千六百一十年同副団長、同千六百一十四年同副団長、同千六百一十八年同副団長、同千六百二十二年同副団長、同千六百二十六年同副団長、同千六百三十年同副団長、同千六百三十四年同副団長、同千六百三十八年同副団長、同千六百四十二年同副団長、同千六百四十六年同副団長、同千六百五十年同副団長、同千六百五十四年同副団長、同千六百五十八年同副団長、同千六百六十二年同副団長、同千六百六十六年同副団長、同千六百七十年同副団長、同千六百七十四年同副団長、同千六百七十八年同副団長、同千六百八十二年同副団長、同千六百八十六年同副団長、同千六百九十年同副団長、同千六百九十四年同副団長、同千六百九十八年同副団長、同千七百零二年同副団長、同千七百零六年同副団長、同千七百一十年同副団長、同千七百一十四年同副団長、同千七百一十八年同副団長、同千七百二十二年同副団長、同千七百二十六年同副団長、同千七百三十年同副団長、同千七百三十四年同副団長、同千七百三十八年同副団長、同千七百四十二年同副団長、同千七百四十六年同副団長、同千七百五十年同副団長、同千七百五十四年同副団長、同千七百五十八年同副団長、同千七百六十二年同副団長、同千七百六十六年同副団長、同千七百七十年同副団長、同千七百七十四年同副団長、同千七百七十八年同副団長、同千七百八十二年同副団長、同千七百八十六年同副団長、同千七百九十年同副団長、同千七百九十四年同副団長、同千七百九十八年同副団長、同千八百零二年同副団長、同千八百零六年同副団長、同千八百一十年同副団長、同千八百一十四年同副団長、同千八百一十八年同副団長、同千八百二十二年同副団長、同千八百二十六年同副団長、同千八百三十年同副団長、同千八百三十四年同副団長、同千八百三十八年同副団長、同千八百四十二年同副団長、同千八百四十六年同副団長、同千八百五十年同副団長、同千八百五十四年同副団長、同千八百五十八年同副団長、同千八百六十二年同副団長、同千八百六十六年同副団長、同千八百七十年同副団長、同千八百七十四年同副団長、同千八百七十八年同副団長、同千八百八十二年同副団長、同千八百八十六年同副団長、同千八百九十年同副団長、同千八百九十四年同副団長、同千八百九十八年同副団長、同千九百零二年同副団長、同千九百零六年同副団長、同千九百一十年同副団長、同千九百一十四年同副団長、同千九百一十八年同副団長、同千九百二十二年同副団長、同千九百二十六年同副団長、同千九百三十年同副団長、同千九百三十四年同副団長、同千九百三十八年同副団長、同千九百四十二年同副団長、同千九百四十六年同副団長、同千九百五十年同副団長、同千九百五十四年同副団長、同千九百五十八年同副団長、同千九百六十二年同副団長、同千九百六十六年同副団長、同千九百七十年同副団長、同千九百七十四年同副団長、同千九百七十八年同副団長、同千九百八十二年同副団長、同千九百八十六年同副団長、同千九百九十年同副団長、同千九百九十四年同副団長、同千九百九十八年同副団長、同千九百零二年同副団長、同千九百零六年同副団長、同千九百一十年同副団長、同千九百一十四年同副団長、同千九百一十八年同副団長、同千九百二十二年同副団長、同千九百二十六年同副団長、同千九百三十年同副団長、同千九百三十四年同副団長、同千九百三十八年同副団長、同千九百四十二年同副団長、同千九百四十六年同副団長、同千九百五十年同副団長、同千九百五十四年同副団長、同千九百五十八年同副団長、同千九百六十二年同副団長、同千九百六十六年同副団長、同千九百七十年同副団長、同千九百七十四年同副団長、同千九百七十八年同副団長、同千九百八十二年同副団長、同千九百八十六年同副団長、同千九百九十年同副団長、同千九百九十四年同副団長、同千九百九十八年同副団長、同千九百零二年同副団長、同千九百零六年同副団長、同千九百一十年同副団長、同千九百一十四年同副団長、同千九百一十八年同副団長、同千九百二十二年同副団長、同千九百二十六年同副団長、同千九百三十年同副団長、同千九百三十四年同副団長、同千九百三十八年同副団長、同千九百四十二年同副団長、同千九百四十六年同副団長、同千九百五十年同副団長、同千九百五十四年同副団長、同千九百五十八年同副団長、同千九百六十二年同副団長、同千九百六十六年同副団長、同千九百七十年同副団長、同千九百七十四年同副団長、同千九百七十八年同副団長、同千九百八十二年同副団長、同千九百八十六年同副団長、同千九百九十年同副団長、同千九百九十四年同副団長、同千九百九十八年同副団長、同千九百零二年同副団長、同千九百零六年同副団長、同千九百一十年同副団長、同千九百一十四年同副団長、同千九百一十八年同副団長、同千九百二十二年同副団長、同千九百二十六年同副団長、同千九百三十年同副団長、同千九百三十四年同副団長、同千九百三十八年同副団長、同千九百四十二年同副団長、同千九百四十六年同副団長、同千九百五十年同副団長、同千九百五十四年同副団長、同千九百五十八年同副団長、同千九百六十二年同副団長、同千九百六十六年同副団長、同千九百七十年同副団長、同千九百七十四年同副団長、同千九百七十八年同副団長、同千九百八十二年同副団長、同千九百八十六年同副団長、同千九百九十年同副団長、同千九百九十四年同副団長、同千九百九十八年同副団長、同千九百零二年同副団長、同千九百零六年同副団長、同千九百一十年同副団長、同千九百一十四年同副団長、同千九百一十八年同副団長、同千九百二十二年同副団長、同千九百二十六年同副団長、同千九百三十年同副団長、同千九百三十四年同副団長、同千九百三十八年同副団長、同千九百四十二年同副団長、同千九百四十六年同副団長、同千九百五十年同副団長、同千九百五十四年同副団長、同千九百五十八年同副団長、同千九百六十二年同副団長、同千九百六十六年同副団長、同千九百七十年同副団長、同千九百七十四年同副団長、同千九百七十八年同副団長、同千九百八十二年同副団長、同千九百八十六年同副団長、同千九百九十年同副団長、同千九百九十四年同副団長、同千九百九十八年同副団長、同千九百零二年同副団長、同千九百零六年同副団長、同千九百一十年同副団長、同千九百一十四年同副団長、同千九百一十八年同副団長、同千九百二十二年同副団長、同千九百二十六年同副団長、同千九百三十年同副団長、同千九百三十四年同副団長、同千九百三十八年同副団長、同千九百四十二年同副団長、同千九百四十六年同副団長、同千九百五十年同副団長、同千九百五十四年同副団長、同千九百五十八年同副団長、同千九百六十二年同副団長、同千九百六十六年同副団長、同千九百七十年同副団長、同千九百七十四年同副団長、同千九百七十八年同副団長、同千九百八十二年同副団長、同千九百八十六年同副団長、同千九百九十年同副団長、同千九百九十四年同副団長、同千九百九十八年同副団長、同千九百零二年同副団長、同千九百零六年同副団長、同千九百一十年同副団長、同千九百一十四年同副団長、同千九百一十八年同副団長、同千九百二十二年同副団長、同千九百二十六年同副団長、同千九百三十年同副団長、同千九百三十四年同副団長、同千九百三十八年同副団長、同千九百四十二年同副団長、同千九百四十六年同副団長、同千九百五十年同副団長、同千九百五十四年同副団長、同千九百五十八年同副団長、同千九百六十二年同副団長、同千九百六十六年同副団長、同千九百七十年同副団長、同千九百七十四年同副団長、同千九百七十八年同副団長、同千九百八十二年同副団長、同千九百八十六年同副団長、同千九百九十年同副団長、同千九百九十四年同副団長、同千九百九十八年同副団長、同千九百零二年同副団長、同千九百零六年同副団長、同千九百一十年同副団長、同千九百一十四年同副団長、同千九百一十八年同副団長、同千九百二十二年同副団長、同千九百二十六年同副団長、同千九百三十年同副団長、同千九百三十四年同副団長、同千九百三十八年同副団長、同千九百四十二年同副団長、同千九百四十六年同副団長、同千九百五十年同副団長、同千九百五十四年同副団長、同千九百五十八年同副団長、同千九百六十二年同副団長、同千九百六十六年同副団長、同千九百七十年同副団長、同千九百七十四年同副団長、同千九百七十八年同副団長、同千九百八十二年同副団長、同千九百八十六年同副団長、同千九百九十年同副団長、同千九百九十四年同副団長、同千九百九十八年同副団長、同千九百零二年同副団長、同千九百零六年同副団長、同千九百一十年同副団長、同千九百一十四年同副団長、同千九百一十八年同副団長、同千九百二十二年同副団長、同千九百二十六年同副団長、同千九百三十年同副団長、同千九百三十四年同副団長、同千九百三十八年同副団長、同千九百四十二年同副団長、同千九百四十六年同副団長、同千九百五十年同副団長、同千九百五十四年同副団長、同千九百五十八年同副団長、同千九百六十二年同副団長、同千九百六十六年同副団長、同千九百七十年同副団長、同千九百七十四年同副団長、同千九百七十八年同副団長、同千九百八十二年同副団長、同千九百八十六年同副団長、同千九百九十年同副団長、同千九百九十四年同副団長、同千九百九十八年同副団長、同千九百零二年同副団長、同千九百零六年同副団長、同千九百一十年同副団長、同千九百一十四年同副団長、同千九百一十八年同副団長、同千九百二十二年同副団長、同千九百二十六年同副団長、同千九百三十年同副団長、同千九百三十四年同副団長、同千九百三十八年同副団長、同千九百四十二年同副団長、同千九百四十六年同副団長、同千九百五十年同副団長、同千九百五十四年同副団長、同千九百五十八年同副団長、同千九百六十二年同副団長、同千九百六十六年同副団長、同千九百七十年同副団長、同千九百七十四年同副団長、同千九百七十八年同副団長、同千九百八十二年同副団長、同千九百八十六年同副団長、同千九百九十年同副団長、同千九百九十四年同副団長、同千九百九十八年同副団長、同千九百零二年同副団長、同千九百零六年同副団長、同千九百一十年同副団長、同千九百一十四年同副団長、同千九百一十八年同副団長、同千九百二十二年同副団長、同千九百二十六年同副団長、同千九百三十年同副団長、同千九百三十四年同副団長、同千九百三十八年同副団長、同千九百四十二年同副団長、同千九百四十六年同副団長、同千九百五十年同副団長、同千九百五十四年同副団長、同千九百五十八年同副団長、同千九百六十二年同副団長、同千九百六十六年同副団長、同千九百七十年同副団長、同千九百七十四年同副団長、同千九百七十八年同副団長、同千九百八十二年同副団長、同千九百八十六年同副団長、同千九百九十年同副団長、同千九百九十四年同副団長、同千九百九十八年同副団長、同千九百零二年同副団長、同千九百零六年同副団長、同千九百一十年同副団長、同千九百一十四年同副団長、同千九百一十八年同副団長、同千九百二十二年同副団長、同千九百二十六年同副団長、同千九百三十年同副団長、同千九百三十四年同副団長、同千九百三十八年同副団長、同千九百四十二年同副団長、同千九百四十六年同副団長、同千九百五十年同副団長、同千九百五十四年同副団長、同千九百五十八年同副団長、同千九百六十二年同副団長、同千九百六十六年同副団長、同千九百七十年同副団長、同千九百七十四年同副団長、同千九百七十八年同副団長、同千九百八十二年同副団長、同千九百八十六年同副団長、同千九百九十年同副団長、同千九百九十四年同副団長、同千九百九十八年同副団長、同千九百零二年同副団長、同千九百零六年同副団長、同千九百一十年同副団長、同千九百一十四年同副団長、同千九百一十八年同副団長、同千九百二十二年同副団長、同千九百二十六年同副団長、同千九百三十年同副団長、同千九百三十四年同副団長、同千九百三十八年同副団長、同千九百四十二年同副団長、同千九百四十六年同副団長、同千九百五十年同副団長、同千九百五十四年同副団長、同千九百五十八年同副団長、同千九百六十二年同副団長、同千九百六十六年同副団長、同千九百七十年同副団長、同千九百七十四年同副団長、同千九百七十八年同副団長、同千九百八十二年同副団長、同千九百八十六年同副団長、同千九百九十年同副団長、同千九百九十四年同副団長、同千九百九十八年同副団長、同千九百零二年同副団長、同千九百零六年同副団長、同千九百一十年同副団長、同千九百一十四年同副団長、同千九百一十八年同副団長、同千九百二十二年同副団長、同千九百二十六年同副団長、同千九百三十年同副団長、同千九百三十四年同副団長、同千九百三十八年同副団長、同千九百四十二年同副団長、同千九百四十六年同副団長、同千九百五十年同副団長、同千九百五十四年同副団長、同千九百五十八年同副団長、同千九百六十二年同副団長、同千九百六十六年同副団長、同千九百七十年同副団長、同千九百七十四年同副団長、同千九百七十八年同副団長、同千九百八十二年同副団長、同千九百八十六年同副団長、同千九百九十年同副団長、同千九百九十四年同副団長、同千九百九十八年同副団長、同千九百零二年同副団長、同千九百零六年同副団長、同千九

町政を説明する町長（小野一二氏提供）

東由利町報

№ 223 の②

昭和50年(1975) 6月1日

発行 秋田県東由利町役場

印刷 K K 本間印刷所

毎月1日発行(1部20円) 和昭42年7月21日第3種郵便物認可

▽13日宿小で自転車教室指導。▲14日永慶保育園で交通安全指導。▽15日みどり保育園で同。▽15日東由利中で交通指導。▽21日全町パトロール。

活躍する指導隊
町交通指導隊は、警察官と連携を取りながら交通安全運動期間中次のように活躍しました。
▽12日全町パトロール・寿大学で交通安全の講義。



マイカーにスピーカーをセットし街頭啓発を行う佐々木老方支部長

町交通指導隊強く反省促す

交通安全自覚が足りないゾ!

◇ 町交通指導隊(大沼武且隊長)は、五月二十一日で終った春の交通安全運動について町駐在警察官とともに総括反省、交通安全に対する町民の考え方に甘さが見られるとして、係宛に次のような書簡を寄せ町民の反省を促しています

③幼児の保護 幼児から目を放している母親や保護者が多かった。④違法行為の返上 農耕用トラクターや軽トラックの荷台乗車が目立った。私たちが町民は、まったくの奉仕活動で町民の事故防止に

◇ 期間中は、小中教職員を始め児童生徒、安全協会役員や町職員、交通安全推進員、同母の会などの積極的な協力により一件の事故もなかったことは幸いであるが、反面で最も事故発生率の高い酒酔い運転や幼児の放任などが目立ったのは誠に遺憾である。今後、次の点には十分注意の上、事故の絶滅に全町あげて取り組むことにしたい。

本年の交通事故は昨年同様に大幅に減少していると言われますが、それでも四月末現在の事故件数(全県)は八百八十六件に達しています。中でも多いのがバイク等二輪車の無謀運転、子どもの飛

二輪必ず保安帽を 街頭の指導取締りを強化

◆東由利駐在所より◆
取り組んでいる交通指導隊員や安全協会等関係者の善意に

婦人に多い^{路上}立ち話

まず大人が手本を示せ



交通指導隊員と警察官の指導で正しい道路横断を学ぶ永慶保育園児たち(写真は大沼武且氏撮影)

追越しをしない。(6)雨天の日

県警では、激増傾向にありしかも重大事故につながる二輪車事故を防止するため「二輪車事故防止対策本部」を設置して取締りの強化をはかっており、本町駐在所でもこれに呼応して、ヘルメット着用の有無、安全速度遵守の状況などを厳しくチェック、事故の未然防止を呼びかけて行くことにしています。(過去における二輪車死亡事故の六八・一割は頭部損傷によるものとされており、来月一日からはヘルメットを着用しない場合点数一点の行政処分をうけます。)

町自転車乗車協会では、安全運動期間中東由利中生徒の自転車二百八十一台のサービス点検を実施、大日向輪店では宿小で同じく実施して関係者から喜ばれました。

町交通安全協会老方支部 支部長に佐々木氏
本荘地区交通安全協会老方支部では、このほど開催した総会で運転免許や車輛所有者のすべてが事故防止の推進員になることを再確認、五十年度の事業計画や予算を審議したあと、次のとおり新役員を選任しました。
○支部長 佐々木源次郎。○副支部長 小松七次郎・阿部松雄。○理事 佐藤謙・高橋慶一・畠山雄三郎・村上種次・畑山武志・遠藤真吉・千葉宇三郎・小野勝造。○監事 木島富三・遠藤治郎助。
また、同支部では、今回の安全運動期間中、スピードカーによる街頭啓発や支部内の安全施設の点検整備を実施しています。



4月29日、重軽傷3人を出した大琴地内の交通事故現場。点線のように約13台転落、奇跡的に一命はとりとめた。本荘警察署で原因を調査中であるが、スピードの出し過ぎ、ブレーキの故障、わき見運転などが原因でないかと見られている。

成果をあげる 集落農場



食糧自給前提に①

食糧基地への布石

農家戸数が七二・八割、農家人口が七八・四割を占め農業立町と言えなくもない本町にとって、その生産構造に改善を加え将来の方向を見定め実践する努力は怠ることのできない使命であるとも言えます。世界的な食糧事情の悪化が叫ばれている中で、食糧の国内自給をうたい、わが国の食糧供給基地として農業生産の安定拡大のため秋田県が実践して来た「集落農場化事業」は、本町でもこれまで向田や宿法内など八集落が事業に着手、その成果を上げつつあります。

今回から数回にわけ、この新しい農業を模索しつつ実践する「集落農場化」事業の背景やねらい実態などを解説しながら考えてみることにします。

一昨年、全一昨一九七〇年代は世界的な食糧不足の時代に突入したと見られ、自らの国の食糧は自らの国でまかなうという食糧の国内自給が世界の共通した考え方になりつつあると言われています。

こうした時代の到来を早くから予見した県では、食糧の国内自給という考え方に立って秋田県を食糧の供給基地にするため各種の施策を講じて来ました。

昭和四十七年度から始めた

集落農場化事業もその布石の一つであります。この事業が生まれる背景として、昭和三十九年度から始められた健康な稲作り運動やその後の七百五十基集団ほう賞制度があります。

背景 稲作偏重の反省

これらの運動は本県稲作の経営安定や生産性の向上に寄与するとともに安定多収を確立させる一方、その展開過程で稲作偏重への反省と組織化への必要性を芽ばえさせたとも言われます。

加えて米の生産過剰を理由

に、昭和四十五年に生産調整が実施されるに及んで稲作以外の成長作物を含めた総合的な食糧供給体制の整備が大きな課題として生じたのが「集落農場化」の事業であるわけですが。

生産体制の確立とねコミニティづくり

集落農場化事業は、経営規模の別なく独自に農機具を保有し農機具等の過剰投資傾向が強まっている農業を是正、生産費の節減をはかるとともに稲作偏重農業を改善、さらには出かせぎや農家人口の他産業就業で経営の粗放化傾向の強まっている農業に反省を加え、集落内の農用地を効率的に利用、農産物を総合的に供給できる生産体制を確立させることをねらいにしています。

▲十三戸で成長作目に、しいたけと葉たばこを取り入れた法内集落農場。四台の田植機を駆使しての共同作業

ふるさと劇団

身近な素材で愉快な演劇

町連合青年会（工藤良会長）では、本年度事業の一つとして東京都に本部をもつ劇団「統一劇場」（通称ふるさと劇団）の町公演を計画、目下準備を進めています。

ふるさと劇団は創立十年目の若い劇団で、農村や働く人々にかかわる切実な問題を素材にして若人から老人にいた

納付免除の制度も

家計が苦しい場合は…

家計が苦しかったり、失業者や火災などで保険料を納めたくとも納められない場合は「保険料納付免除」の制度を利用することが出来ます。

年金通信

この免除には①法定免除（障害年金や母子福祉年金、あるいは生活扶助をうけている場合など）と②申請免除（納められない特別な事情があり県知事に申請し

て承認を得た場合）の二つの方法があります。

法定免除には該当しないが生活が苦しいとか、特別な事情（病気や災害など）のため保険料を納付できない場合は速やかに②の申請免除の手続きをする必要があります。

納められなくなったからといってそのままにしておくと、その期間は年金を受ける資格期間から除外されます。

免除の申請をすると、本人や家族の所得状況の調査が行

体育館。▼入場料 一人千円。但し家族券は三人で二千円。ご芳志ありがとう

役場に盆栽展示

泉秀寺住職五十嵐泰宗さんは、丹精こめて育て上げた見事な盆栽数点を今年も役場の窓口に飾り、役場を訪れる人々を喜ばせています。



善意の盆栽に見入る職員

われ、免除に該当するかどうか決められます。

前記①②の免除を受けた場合は、保険料を納めていた人より老令年金の額が少なくなります。しかし、生活に余裕が出た後日に免除された期間分の保険料をまとめて納めることにより、引き続き納めた人と同額の年金が受けられることになっています。

②の免除を申請したい方は七月末日までに役場国民年金係（窓口⑤番）へご相談ください。（印鑑持参のこと）

五十嵐さんのこうした善意はここ数年続けられているものです。ありがとうございました。

アメリカシロヒトリ

発見したら通報を

広葉樹なら種類を問わず大きな被害を与えるアメリカシロヒトリの発生期です。

本町にはこれまで発生例がありませんが国道沿いに侵入することが考えられますので発見したら直ちに町産経課へ連絡がのぞまれています。

今月の作業停電

ご協力お願いいたします。

▼11日9時〜12時 五海保・山崎・板戸・松沢方面。

▼25日13時〜17時 岩館および法内地区全域。

▼26日9時〜12時 石高。